

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会 時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信 夫

両団体理事長 半 田 晴 久

環境技術委員長 坂 本 忠 彦

専務理事兼事務局長 清 原 淳 平

環境技術委員会のお知らせ (第325回)

日 時 **平成28年5月24日 (火) 午後3時～5時半**

場 所 **衆議院第一議員会館 地下1階 第4会議室**

千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より2分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車5分。当日、午後2時半より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「第4会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

議 題 1、「環境問題について、昨今、思うこと」

挨拶 坂本忠彦環境技術委員長

2、**地球温暖化、及びPM2.5に関するビデオ視聴**

—— **中島部会長御提供のビデオ「NHK くらし☆解説」** ——

3、『環境技術関連ニュース NO.150』

解説 中島稔科学技術部会長

報 告

去る4月20日開催の第324回環境技術委員会は、坂本忠彦委員長が議長を務め行われました。まず、清原淳平専務理事兼事務局長より、当日の講師・遠藤守信信州大学特別特任教授の経歴紹介がありました。次に、坂本委員長より、「環境問題について、昨今、思うこと」と題して開会挨拶がありました。桜の季節を過ぎ、ようやく過ごしやすいい気候になってきた。桜は秋に芽を出し、冬を越して開花する。桜前線と言うものがあり、昔は西から東へ流れていたが、最近では温暖化の影響からか、例えば九州では北の方から開花する、関西より東京の方が開花が早いなどの現象が起きている。CO₂と温暖化の関連性は定

かではないが、生態系に影響が及ばぬうちに技術開発を進めて行く必要がある。

次に、当日の講師・遠藤教授より、「石油・天然ガス排水から油分除去し、再利用する技術」について以下の趣旨の解説がありました。日本の水浄化技術は、台湾の猛追を受けている。既存の技術ではコスト面で対抗できない。そこで目をつけたのが、石油とともに産出される水の浄化である。その量は、油田一つ当たり東京都の全家庭で1年間使用する量である。この水には放射性物質が含まれているので飲用には適さない。海洋に戻すか井戸の冷却用に用途は絞られるが、海洋に戻すには各国ごとに定められた基準を充たす必要がある。なおかつ、油分を完全に除去する必要がある。これには飲用水をつくるよりはるかに膨大なコストがかかっていた。そこで着想を得たのが、海水の淡水化で用いる逆浸透膜の原理である。薄膜に圧力を加えることによって塩分と水を分離することが出来るが、この膜では、黒鉛を硫酸に漬け、その後1000℃まで加熱する。すると、直線で整列していた黒鉛の分子が湾曲し、広がった分子の間に油分が入り込むという原理である。黒鉛は安価で手に入るので、今までの技術よりコストダウンが見込める。

次に、中島稔科学技術部会長より『環境技術関連ニュース No. 148、149』の解説がありました。○電力各社、CO₂排出削減を監視する新組織を設立、目標未達なら罰則も、○水のセシウムを9割除去する技術。除染フィルターにゼオライトを使用。○CO₂と水素から工業原料を生成する技術、○CO₂からCO生成速度を2倍にする技術。○炭素繊維のリサイクル技術、○汚染土壌を細菌で安く浄化する技術、○CO₂をメタンと混合し、化学品原料や炭素繊維にする技術、○海底から鉱石の回収実験。採算性を検証中。○CO₂の地下貯留実験を来月より開始、などの解説があり、一同大いに勉強になりました。

★当日会費五百円にご協力お願い申し上げます。

次回、5月24日（火）の環境技術委員会に

出・欠（いずれかに○印）

御芳名 _____

貴方様のFAX _____

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。
新規参加希望者は、予め履歴書をご提出ください。

事務局宛FAX 03-3507-8587

公益財団法人協和協会 03-3581-1192 時代を刷新する会 03-3272-4320

ホームページ <http://www.kyowakyokai.or.jp> Eメール shigeta@jidaisassin.jp